



鹿沼市移住・定住促進戦略（概要）

1 目的

本戦略は、本市を取り巻く社会情勢等を分析し、特に東京圏からの移住・定住者の獲得に向けた基本的な方向性を示す計画です。

令和元年度に策定した「鹿沼市移住・定住促進スキーム」について、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う移住トレンドの変化に対応するため、考え方を再整理し、新たに重点事業領域や重点ターゲットなどを決めました。



【用語の定義】

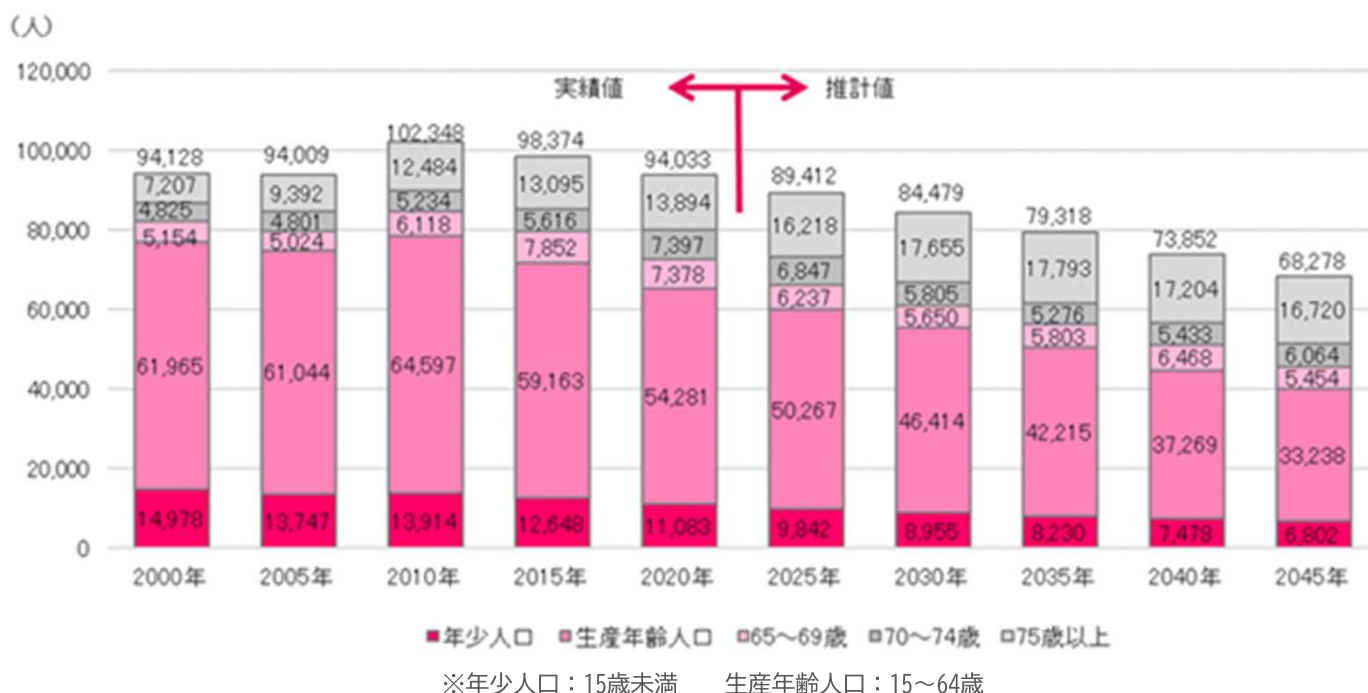
本戦略で使用する用語の定義は、次のとおりです。

- 移住・・・自分の意志で「新しい暮らし方」をするため、転出・転入すること
- 定住・・・移住（転入日）から3年以上経過した状態

2 現状

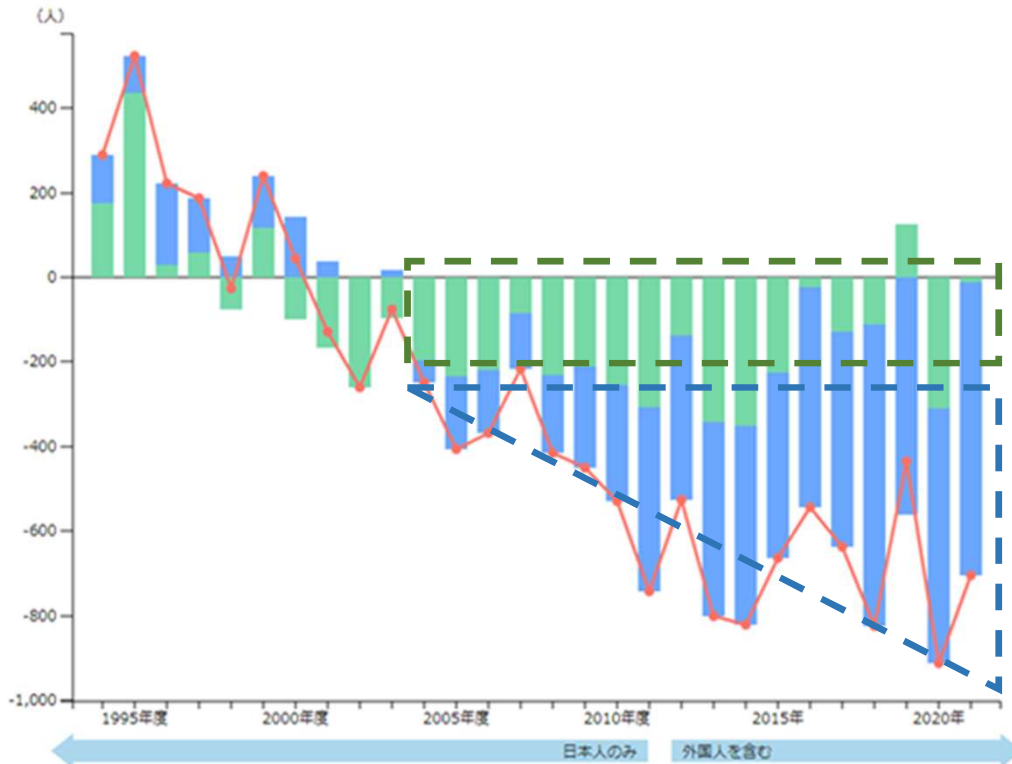
(1) 人口推移と将来推計

本市の総人口は、2045年には約68,000人となり、老年人口の割合も40%を超えることが予想されています。



(2) 自然動態と社会動態

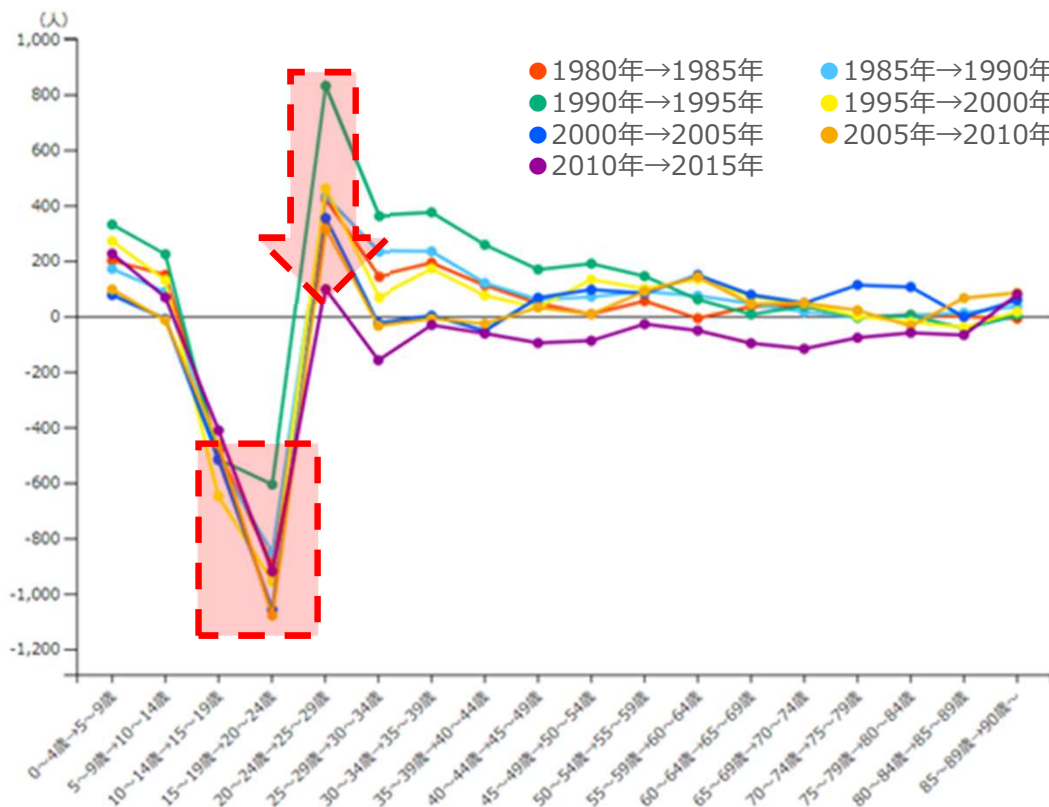
2000年度以降、**社会増減数**（転入・転出の差）の減少数の変化は少ない反面、**自然増減数**（出生数と死亡数の差）の減少幅が増えています。



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

(3) 年齢階級別の純移動数

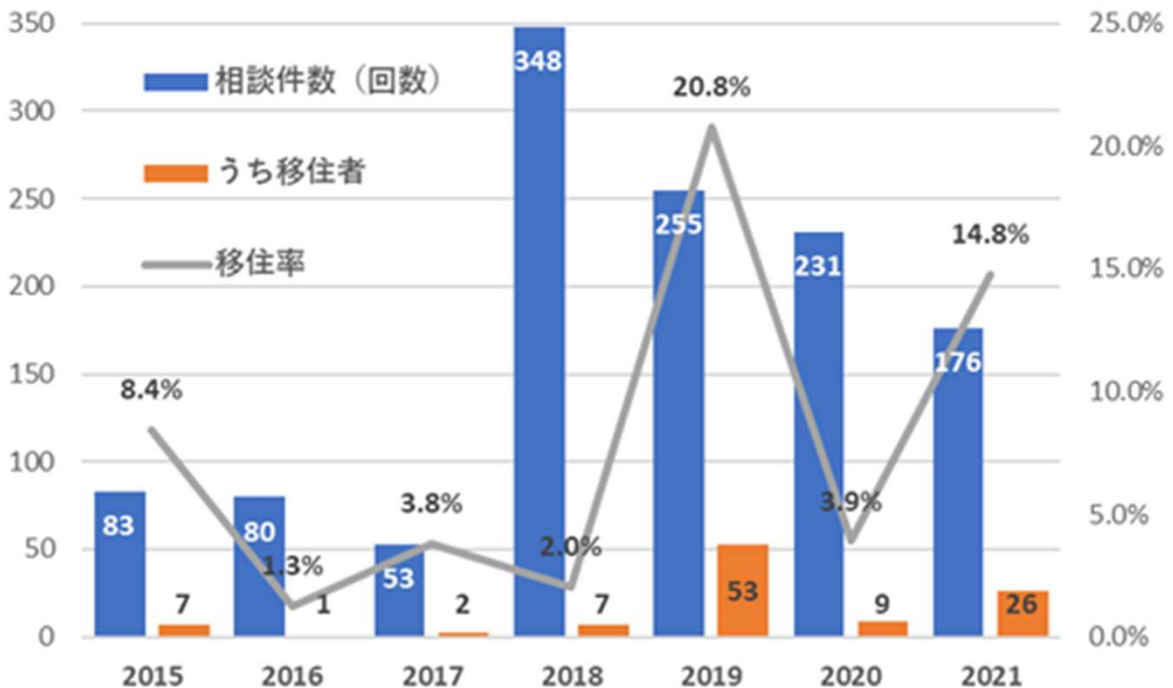
1980年代から10～20代前半に流出し、20代後半に流入する傾向に変化はありませんが、近年は、流出数に対する流入数が減少しています。



出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

(4) 移住相談件数と移住者数

対面機会の減少により相談件数は減少していますが、移住率は増加しています。



3 分析

本市の内・外の環境を、それぞれプラスとマイナス要因に分けて、本市の移住に関する現状を分類しました。

	内部環境	外部環境
プラス要因	強み 【自然が豊か】 ・特色ある美しい景観 【暮らしやすさ】 ・都心や宇都宮市へのアクセスの良さ ・里山と市街地の近さ 【多様な仕事・高い技術力】 ・バランスのとれた産業構造 ・農業産出額の大きさ 【人のよさ】 ・ものづくりの技術力の高さ ・おもてなしの心、人とのつながりを重視する風土	機会 【意識の変化】 ・移住に関心を持つ若年層（20～40代）・女性の増加 ・若年層の社会貢献・自己成長意識の向上 ・U・J・孫ターンの増加 ・農ある暮らしへの関心の高まり 【暮らし方の変化】 ・新築志向の低下、中古物件のニーズ増 【働き方の変化】 ・テレワークの推進 ・ワーク・ライフ・バランス、副業・兼業の推進 【技術の変化】 ・DX推進による労働生産性の向上
	弱み 【人手不足】 ・人口の自然減、社会減の加速 ・生産年齢人口の減少に伴う働き手不足 ・女性の転出超過 ・児童・生徒数の減少 ・地域の担い手不足 ・Uターン者の少なさ（20代後半の転入者の減少） 【遊休資産・財源不足】 ・公共施設、インフラ等の老朽化（財政負担の増大） ・デジタル化への対応の遅れ	脅威 【人口減少】 ・少子高齢化の進展、結婚率の低下、単身世帯の増加 ・交流人口、訪問型関係人口の減少 【経済停滞】 ・労働者不足の深刻化、農林業の高齢化、後継者不足 ・新型コロナウイルス感染症による経済活動の縮小 【地域課題】 ・地域課題の顕在化、地域力の低下 ・空き家、耕作放棄地の増加 【社会問題】 ・自然災害の頻発化、激甚化 ・デジタルデバインド（情報格差）の広がり
マイナス要因		

4 目指す姿

(1) 将来像

移住・定住施策を通じて「どんなまちにしたいか」という視点で将来像を設定しました。

若い移住者と住民が、お互いを尊重し合い、協力して働き暮らすまち

【まちのイメージ】

- ・意欲ある若々しい人材が集い、活躍している
- ・縁のある人が帰って来なくなる、知り合いを呼んでみたくなる
- ・移住者も元々住んでいる人と同じくらい地域に愛着を持ち、住み続けたいと思う

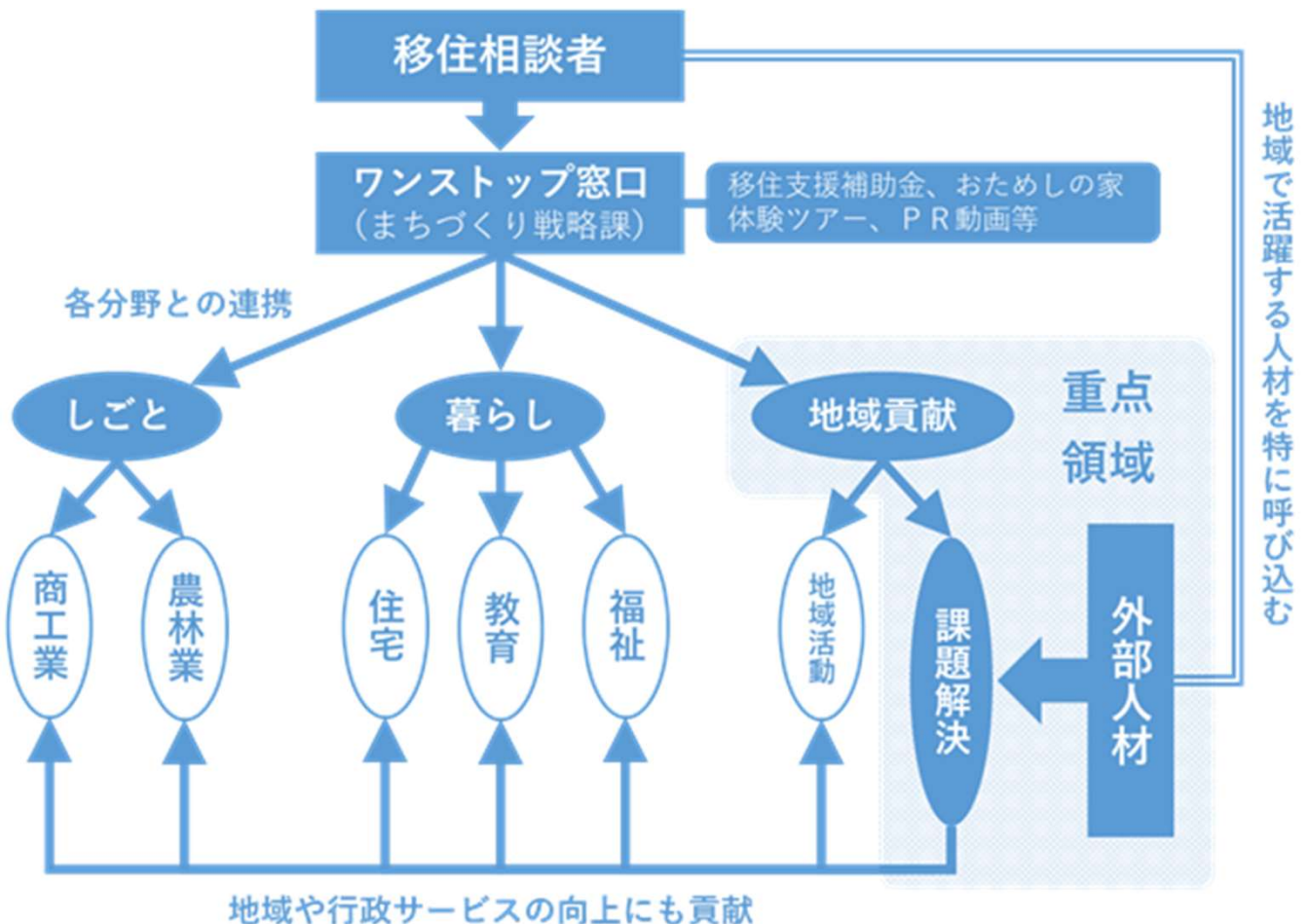
(2) 重点ターゲット

将来像の実現に向けて、特に来て欲しい人物像を重点ターゲットとして設定しました。

新しいことにチャレンジする意欲・能力をもった若々しい人材 地域住民と一緒に汗をかける人材

5 相談体制

移住・定住に関するワンストップ窓口として、各部局と連携して相談を受け付けます。特に、地域に貢献できる人材となりえる移住者や関係人口を積極的に呼び込みます。



6 目標

(1) 重要業績評価指標 (KPI)

本市の移住・定住施策の有効性を確認するための指標（重点業績評価指標：Key Performance Indicator）を設定しました。

KPI 移住獲得率（移住相談世帯のうち実際に転入した世帯の割合） **15%/年**

(2) 重要目標達成指標 (KGI)

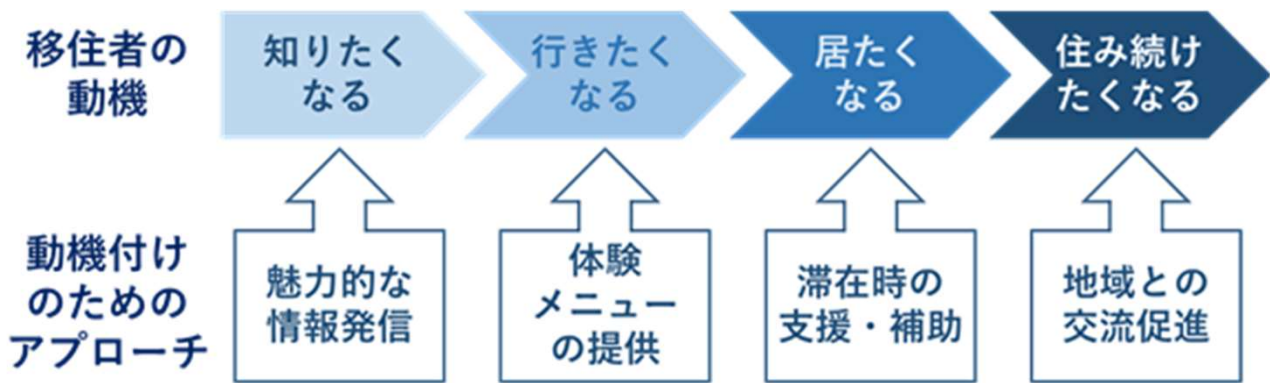
本戦略に基づく本市の移住・定住施策を通じて目指すべき目標値（重点目標達成指標：Key Goal Indicator）を設定しました。

KGI① 移住者数（市の支援制度を活用して転入した人数） **50人/年**

KGI② 定住率（転入3年後も市内に居住する者の割合） **90%以上**

7 事業展開

金銭的な補助だけではなく、移住後の生活をイメージしやすいよう、人と人が繋がる仕組みづくりを進めていきます。



取組事業例

分類	事業例	内容
知りたくなる	Uターン者向け移住・定住情報の発信強化	市内に縁のある若年層をメインターゲットとし、鹿沼で魅力的に暮らす人をテーマに情報を発信
行ってみたくなる	移住体験モニタリングツアー	移住や二地域居住、ワーケーションに関心の高い東京圏在住者を体験モニターとして招待
	おためし移住体験施設の拡充	民間宿泊施設を移住体験施設として活用し、宿泊費等を支援
	地域課題×外部人材マッチング事業	地域課題の解決に意欲・能力のある外部人材を募集し、その取組を支援
居たくなる	多様な企業への就業促進+就農・林の支援	商工業や農林業への新規就業支援を部局間で連携して推進
住み続けたいくなる	市内外の人材が交流するコミュニティ・サロンづくり	移住者や地域プレイヤーが親睦を深め、情報交換等を行う集いの場をセッティング